

令和6年度 第77回卒業式式辞

つい先日まで黄金色の絨毯を敷き詰めていた並木の公孫樹も、細く伸びた枝に新芽を抱き、通り抜ける北風の中にも、春の足音の近づきを感じさせてくれます。

本日、この佳き日に地域関係者の皆様のご臨席を賜っています。厚く御礼を申し上げます。保護者の皆様、お子様のご卒業を心からお祝い申し上げます。

第77期生の皆さん、ご卒業おめでとうございます。今、294名に卒業証書をお渡しいたしました。豊多摩高校全日制の同窓生は27,158名となりました。旧制中学及び定時制の同窓生を合わせると28,000名、数年後には30,000名を超えます。

豊多摩は同窓生の愛に包まれた学校です。日々自習室の管理や下校指導をしてくださったり、毎週花壇の手入れをしてくださったりしていることは皆さんもご存じのことと思います。昨年11月に亡くなられた、詩人の谷川俊太郎さんは豊多摩の第3期生です。のちほど卒業生代表によって朗読される詩、「あなたに」もその時の報道の対象となりました。本日、ご列席の皆様におかれましては、豊多摩らしさに満ちた力強いメッセージをお聴きいただければと存じます。

3年前、皆さんの笑顔もマスク越しに想像することしかできなかった頃、入学式で私は、七十七は人の人生の節目になぞらえれば「喜寿」、喜びの学年としていつも喜んでいてほしいとお話しをしました。日常的にも、伸び伸びと主体的に、そしててっぺんを取れなどと能天気なことを言い続けてきました。コロナ禍の鬱蒼とした時代にあって、喜んでばかりいられないことくらい自明でしたし、皆が最後に喜んでいられるためには、自己都合としての自由だけでなく、他に自由を与えることについても、深く考えてくれると信じていたからです。

在学中、皆さんは勉学に励みながら、部活動や学校行事の中心となって、活発な豊多摩を取り戻す原動力となってくれました。ここ豊多摩で自分を解き放ち、根拠のない自信と楽観主義を身に付けた人もいたかもしれません。私は、そうあってほしいと願ってきましたし、そうしてともにパンデミックを乗り越えてきたのだと考えています。

皆さんは豊多摩で、多くのことを獲得してきたことと思います。ご自身の進路もその一つです。しかし、その栄冠は、決して人にひけらかすためにあるもので

はありません。予測不能な時代にあって、偏差値の高い大学に合格したことが、すなわちみなさんの将来を確約するものではないからです。むしろみなさんが、将来の夢の実現に向けてどれだけ多くのことを学ばなければならないのか、そのことを自覚する場となるはずです。すなわち、大学合格はゴールではなく、スタートだということなのです。

皆さんのゴールは何でしょうか。そのゴールはどこにあるのでしょうか。メジャーリーグ殿堂入りを果たしたイチロー、「これからがスタートだと考えている」と。横綱に昇進した豊昇龍、「(横綱になった) このてっぺんより、もっと上のてっぺんを目指す」と。

いずれも最高の栄誉を獲得してもなお満足することのない、強い向上心と未来への可能性を秘めています。ゴールにたどり着いたと安堵する間もなく、次のゴールに向けて走り出しているのだろーと思います。もはやゴールなどあり得ないのかもしれない。

これから先、皆さんが向かう将来は、順風満帆に進むことができる道ばかりとは限りません。逆風が吹きすさぶ中、先の見えない荒海を進んでいかなければならないこともあると思います。

「逆風におかってとべないトリは、遠くへ飛べない」…おのたけじさんの言葉です。おのさんは、100歳を超えてジャーナリストとして活躍され、たくさんの言葉を残しています。「きのうは去った。あすはまだ来ない。きょうというこの日に、全力を注ぎこもう。どんなにつまらなく思われる一日であろうと、どんなにつらい一日であろうと、きょうがなければあすはない。」と言っています。今日から始まるのです。

しかし、私たちは人生の中で、止めどなく吹き続ける向かい風に心が折れてしまうこともあるのではないのでしょうか。そんなときは、ヨットの原理から学びましょう。ヨットがその帆の角度を変えることで、向かい風を取り込んで風上に進むことができるのをご存じですよね。最短距離で行く必要などありません。ヨットのようにジグザグに少しずつ前に進めばよいのです。向かい風を真正面から受けず、受け流せばいいのです。大切なことは風をコントロールしようとするのではなく、自分自身をコントロールすることです。あきらめずに向き合い続けていれば、そのうちきっと風向きだって変わってくるはずです。前を向いて、一つ一つのことに全力を注ぎ、威風堂々と進んでいこうではありませんか。

ご列席の皆様、本日はご来校いただきましてありがとうございました。こうして巣立っていく豊多摩の青年たちとともに見守り、育てていただきましたことに御礼を申し上げます。保護者の皆様、これまでPTAやおやじの会などの諸活動を通して、多方面に渡るご支援を賜りましたことに深く感謝申し上げます。学校として行き届かぬ点多々あったかと存じますが、本校の教育活動にご理解とご協力を賜りましたことに、厚く御礼申し上げます。

卒業生の皆さん、卒業はゴールではありません。今日から始まるのです。豊多摩で培った、自由な発想と健全な批判的精神を身にまとい、主体的に、力強く羽ばたかんことを心から期待しています。そしてまたいつの日か、豊多摩を愛する同窓生として、皆さんの後輩たちを支援していただくことをお願いいたします。

卒業生の皆さんの新たなスタートの日に。

向かい風を抱いて！ Touch the Sky!

令和7年3月8日

東京都立豊多摩高等学校長

枋倉 和則